**6月28日　株式会社READYFOR　代表取締役　米良 はるか 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

「シェア」によって誕生した新しいビジネスが最話題となっていて興味があり、本日は最前線で活躍している米良はるか氏のお話を伺えて、刺激をたくさんいただいた。クラウドファンディングが資金調達の手段の一つであると同時に、活動のファン獲得やPRの手段として利用されている仕組みが受け入れられているのは、「シェア」の基本がやはり人との信頼で、人の顔が見える社会を求めているのだと思います。私が思っていたよりも早く、そして多くのビジネスが「シェア」で立ち上がり、社会を変える大きな力になっていること知り、わくわくした。資源・知識・人脈・信頼をシェアし合い、共感が「世界をより良くすること」未来志向のサービスの数々がこれからさらに広がっていくのが楽しみです。(経営 経営2年)

とても若い講演者の方だったので、スタートから親近感がわきました。米良さんの講演で1番印象に残ったのが、「やりたいと思ったことを実現できる社会」というものでした。クラウドファンディングについて何となくは理解していましたが、仕組みを聞くことで米良さんが目指しているものとクラウドファンディングのマッチングを見ることができました。これまで多くの講演者の方のお話を聞いてきましたが、1番働いてみたい、インターンしてみたいと思いました。米良さんの経験としてあった、「思いついた時にやらないと結局行動できずに終わる」というのもすごく心に残ったので、自分のこれからしたいこと、すべきことを考えて、どんどん実行していきたいと思います。（経営学部・経営学科・1年）

1月のカンブリア宮殿見ました。パラリンピックのスキー日本代表の方のスキー板のワックス代のお話やAll or Nothing制度などのお話をよく覚えています。「リメイクした映画のエンドロールに寄付してくださった方々の名前をいれる」という支援者へのリターンは映画ファンの方々にとってはとても魅力的なことだと思いました。「やりたいことをやってみるという姿勢は見習いたいと思いました。（経営学部・経営学科・1年）

現在私は金融系のゼミに所属しており、資金調達の仕方などを勉強しているが、主に大企業をモデルとした資金調達についてしか学んでいない。そのため、見返りをお金にするのではなく、何かしらの特典にすることで、不特定多数から資金調達ができるというクラウドファンディングの話は本当に興味深かった。また、民間の人たちのお金を動かして国際協力団体にお金の流れを作ることは面白いプログラムだと思った。今後経済を動かすためには、民間の人のお金を動かすことが重要なポイントであるという当たり前だけど忘れがちな点を忘れないようにしたいと思う。（経営学部　会計・情報学科3年）

小中高の間から起業を考えているというわけではなかったのに、大学院生になったときに急に留学をしたり、その経験に刺激を受けてクラウドファンディングのしくみを海外から学び取って起業したりと、その行動力の高さに驚かされました。クラウドファンディングと聞くと資金を集めるためのシステムというイメージが強かったけれど、ファン獲得のためやPRのためにも使われていることを初めて知りました。また、起業が成功した後のお礼にも３つのタイプがあって、特に購買型のお礼ではいくらお金を払ってくれたらどの商品がもらえるというようなことが事前に定められているということもまた初めて知りました。クラウドファンディングを利用している年齢層が中学生から80歳までいるという事実を知って、新しいこと・やりたいことを始めるのに年齢などは関係なく、やる気や積極性が大切であることを改めて感じました。（経営学部　経営システム学科　1年）

誰もがやりたいことを実現できる世界を創るという理念が立派に思いました。自分のやりたいことを実現したいと思う人は少なくありません。しかし、何も思わずにいた人もいます。私はそういう人で、その自分に劣等感を感じています。米良さんの話を聞いて、人の夢を支援することもできると思い、とても感銘を受けました。（経営学部・経営システム・1年）

やはり、代表取締役をやっているような方も、大学前、入学直後ではやりたいこと、なりたいものが見つかっていないと聞いて、自分もしっかり焦らず探していきたいと思いました。また、やりたいこと、アイデアは突然何かをきっかけにひらめくということを学びました。なので、瞬間瞬間を大切に過ごしていきたいと思います。また、ネットを活用して世界中をつなげて助け合うという思いは素晴らしいなと思いましたし、さらに、投資する人を楽しんでできるようにするというのは斬新でとても驚きました。また、最近は、２０代・３０代が中心的で若い企業が多く、経験面での穴をどのように埋めているのか気になりました。いろいろ新鮮で、貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。（経営 国際経営１年）

READYFORを起業されるまでのお話しを聞いて、何か少しでもしたいと思うようなことがあればすぐに動くことのできる方なのだなあと思うとともに、何かしたいと思ったときにすぐに行動して形にしていかないとただの思い付きだけで終わってしまうものなのだろうなあと思いました。今までCFのことをあまり知らず、募金活動的なものかと思っていましたが、今回の講義で３種類のCFと、それがどういったシステムのものかを知ることができました。READYFORの目標金額が集まらなければ全額支援者に返金するという手法は、透明性を保つためにとても良い手法であり、信頼を得るために非常に重要なことだと思いました。また、１対１でキュレーターに手伝ってもらえる手厚いケアもとても心強いと思いました。（経営学部国際経営学科１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

起業とは少しかけ離れてしまうかもしれないのですが、私はどんどん進行する高齢化に対応するために何か高齢者が安心して暮らせて、若者も力強く生きていけるようなシステムを作りたいと漠然と考えているので、クラウドファンディングを利用して一度挑戦してみようと思いました。（経営学部・会計情報学科・１年）

自分が事業を起こすのではなく、「何か応援したい事業に関わる」という考え方もとても大切な考え方だと思った。今自分が「何をやって働くか」ということが明確に定まっていないため、このような活動を通じて、自分は何に興味があるのかということを探って明確にしていきたい。（経営学部　経営システム科学科　1年）

昔よりも、お金を集めることがそんなに難しくなくなったのだと感じました。小さなアイディアでも温めていこうと思います。（経営学部・経営学科・1年）

**授業スタッフの感想**

　READYFORの行っているクラウドファンディングについて、今までも仕組みなどは知っていたけど、改めて聞くことで、働く側として、非常に多くの考えに触れることができ、人脈も幅広く様々な分野に広げられる、これから何かをしたいと考えている人にとって理想に近い環境なのではないかと思った。今までインターンをしようと漠然と思っていたけれど、するならこの業界にしたいと初めて思えた。

　また、米良さん自身がとても面白く、コミュニケーション力がものすごく高くて、ああいう風に誰とでもすぐ打ち解けられるのは、何をするにもとても優位に進められる非常に卓越した才能だと思った。自分は人見知りの気があるので、米良さんを見習っていきたい。

　ただ、今回の講義はREADYFORとクラウドファンディングの説明のような形になってしまっていて、得るものは確かにあったけれど、授業のテーマからは少しそれてしまっていたのではないかとも思った。

今回の講義のアンケートを集計して思ったことは、講師の米良さんのポジティブな考え方を自分も持ちたいと感じている人が多かったということです。自分自身、講義やその後の会議室でのお話を聞いているとき、米良さんのポジティブさをとても感じていました。あれほどポジティブに様々な物事に向き合っている人は滅多にいないだろうし、正直、天性のものだと思いました。その天性の才能でもって会社の人を引っ張っているのだろうなと思いました。自分はそこまでポジティブな人間ではないので、米良さんのポジティブシンキングを見習っていきたいと思いました。